

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400013		
法人名	有限会社 小春日和		
事業所名	グループホーム小春日和		
所在地	亀山市南野町12-13		
自己評価作成日	平成27年3月15日	評価結果市町提出日	平成27年6月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490400013-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が健康で安心・安全な生活、生き生きと穏やかに生活していただけるように職員一同、一丸となりサポートしている。利用者の身体・精神状況をしっかり把握して、心のケアを大切にしている。利用者・職員共に元気で明るく、家庭的な雰囲気笑顔が溢れている。地域の方々にも見守られ、毎月ボランティアの方々(レク・オカリナ等)の協力でお茶やお菓子を楽しみながら、楽しい時間を過ごし、利用者も大変熱心に参加している。外部の方々との語らいやゆったりとした時間の共有を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の自宅に隣接し、住宅街に設置された一ユニットのグループホームである。経験豊かな管理者を中心に、50代～70代のパート女子職員がチームワーク良く、明るく生き生きとして支援している様子が伺える。利用者は介護レベル1～3であり、天候を考慮しながら日常的に近隣を散歩する事が日課となっており、地域の方との「ふれあい」を大切に暮らしが続けられる様に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき利用者の願い・思いを傾聴・受容して、尊敬の念を持って接し、利用者の自立を支援している。	平成18年の法改正に伴いつくられた「認知症介護理念」に基づき、一人ひとりの尊厳を大切にしながら、日常の支援では「傾聴」に心がけ支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報をうけ、参加を心がけている。地域の祭りには当施設の駐車場が子供神輿の休憩所となり、地域の一員として行事を楽しみ、ふれあい交流の機会となる。	地区コミュニティセンターで開催される文化祭には、職員と共に作成した作品を展示している。また、オカリナや手品を披露して頂くボランティアもあり、ふれあいの機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の様子等を毎月の職員会議議事録をもとに運営推進会議のメンバー(自治会長・民生委員)にお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告・利用者の様子・新しい取り組み・問題点等を報告。出席者の意見を参考にし、問題点課題点について更なる話し合いを行い、今後のサービス向上に活かしている。	市の高齢障がい支援室や自治会長、民生委員の参加を受け開催しており、夜勤者と管理者との意思疎通の改善等の助言を頂き、「意見交換ノート」を使って実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用者入所情報を報告するとともに、事業の運営についてや利用者に関する相談をして協力関係を築いている。	高齢障がい支援室に行き利用者の状況を伝え、助言を受けながら協力関係を築いており、広域連合の実地指導を受けながら支援の改善に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無断外出をする利用者がある。見守り強化・センサー等の工夫をしながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員が3人体制になる8時30分～17時30の間は玄関の施錠はせず、外出願望のある利用者については職員が特別対応して支援している。尚、身体拘束禁止に対するマニュアル及び研修の実施は確認出来なかった。	身体拘束禁止の共通認識の為にも、事業所としてのマニュアルを作成すると共に、意思疎通を図る為の定期的な研修の実施が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は利用者の様子等に細心の注意を払い、防止に努めている。職員間もお互いに利用者に対して適切な対応をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象の利用者がいるのだが、親類の対処が遅れている。今後の課題である。学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に十分な説明を行い、十分に理解・納得してもらうことを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置している。面会時に利用者の状態・状況をお知らせするとともに、意見・要望等も直接お聞きして今後の運営に反映できるように努めている。	利用料や立替金の支払いに来所された時には、管理者を中心に利用者の状況を伝えると共に、意見や要望を気軽に話して頂く雰囲気心がけている。年二回発行する「小春日和便り」には外出時の様子等を載せ、近況をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見が反映できるように改善提案書の提出を受け付けている。職員意見交換ノートにより職場の意思統一を図っている。毎月末に職員会議の開催で介護現場からの意見を聞く機会を持っている。	ケア会議兼職員会議が毎月末に開催され、意見交換が積極的に行われている。管理者と職員との「意見交換ノート」があり、意見や提案を聞くツールとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を聞く機会を持ち、身体的・精神的に無理のない勤務で向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を確保し、職員一同で学ぶ機会を持ち、意見交換をしてより良いケアの実践ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加して交流の機会をもち、ネットワーク作り・意見交換・情報交換の機会を持ちサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように、面談を行い、本人の困りごと、不安・要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとすうえで本人との信頼関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように、家族とも面談を行い、困りごと、不安・要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとすうえで家族との信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、意向を把握して、総合的援助が出来るように対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、当施設の介護理念を守り、利用者と共に出来ることに喜びを感じながら、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族等の面会時には本人の身体・精神的な日常の様子状況説明をして、家族等が本人とのより良い時間の共有が出来る様に援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と一緒に歌を楽しむ、昔を回想する等本人との心地良い時間の共有を大切にしている。	利用者の知人や親戚の方の訪問もあり、ボランティアの方との馴染みの関係もある。要望により自宅の様子を見に行く時もあり、場所との関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の日課により生活し、一緒に支えあい、協力しながら、仲良く暮らしを共にしていける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設の利用が困難になった場合、必要に応じて情報提供・相談には対応している。信頼関係は、継続出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと会話をする機会を持ち、思いや意向を聞きながら把握していき、できるだけ利用者主体となるようにしている。	日常は食堂兼居間で過ごす機会が多いが、様子を見ながら利用者と二人きりで話す機会を設け、希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の上、課題分析(アセスメント)概要を作成して、共通理解の下支援を始める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当施設の介護理念に基づき支援している。毎朝バイタルチェックをして観察をした後、身体的・精神的な充足感が得ることが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のケアの課題点・方法を協議の上設定、目標に向かって支援している。新たな課題点が発生した場合は会議を開催して職員一同で検討している。	介護計画書は1年間となっており、介護レベルの変化により随時見直しが行われている。目標に基づく支援内容の実施状況を確認するモニタリングは項目毎にチェック出来る様式となっていないが、日常の業務日誌等により総合的に評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア目標(課題点・ケアの方法)を立てて、その視点・観点で日々の個人ケア日誌を記録していく。新たな問題点はミーティング・職員会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望や思いをできるだけ尊重し、外出行事・誕生会・季節行事・お楽しみ昼食を行っている。医療機関の受診支援もしている。ボランティアの方々との楽しい時間の共有も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	閑静な住宅地で環境も良く、天気の良い日は、散歩・戸外でレク・歌・おやつ・お茶の時間を持ち、外の空気を満喫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援をしている。受診の際には身体状況を報告して、薬の処方をして貰っている。緊急時にはかかりつけ医に連絡し、相談・指示を仰ぎ、往診支援もして貰っている。	協力医の契約はしていないが、決められた内科医院での定期受診が実施されている。要望により往診も対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェック・健康観察をしている。利用者の体調変化時には、かかりつけ医に連絡し、相談・指示の下、適切な受診が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、見舞いや電話で経過報告を聞き、退院に向けてのアドバイスをしてもらう等情報交換や相談をしている。ケースワーカーとの情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との協働の下、当施設として出来ることを十分に説明して方針を共有し、家族の理解が得ることが出来た場合チームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に於ける事業所の対応については、契約時に事業所として出来る事、出来ない事について説明している。過去には2名の終末期対応の経験はあるが、事業所としての「指針」は確認出来なかった。	終末期に対する考えは、入居当初とは変化する事が考えられるので、事業所としての基本的な対応についての「指針」を決め、家族や職員の不安解消の為の検討が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の疾病・治療経過・薬剤等の情報は記録し、共通理解を図っている。利用者の体調変化時にはかかりつけ医に連絡し、相談・指示の下、適切な受診をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回3月、9月に利用者とともに火災・防災の避難訓練を行っている。実施する際には地域の方々にもお知らせして協力体制を築いている。	通報訓練・避難訓練・消火訓練等が、3月・9月に実施されており、訓練時には近隣に連絡し理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が出来る様に、言葉かけや会話にも注意をはらい、対応している。	トイレ誘導や日常の声かけ時には名前の呼び方に配慮し、親しみを込めながらも人格を尊重した対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定が出来る様に、職員は和やかな雰囲気と笑顔の対応で傾聴・受容して、尊敬の念を持ってかわり支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を聞き、本人の主体性を重んじ、日々の安らぎを感じることが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・外出時・入浴更衣時等個人の主体性を重んじ支援している。肌あれ・唇・手荒れ防止にケアタイムも設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食の副食は老人宅配サービスを利用している。1ヶ月に1、2回お楽しみ昼食(誕生日)では、利用者の好みに合わせて職員が手作りで提供している。行事も利用者主体で行っている。	昼食及び夕食は外部の宅配サービスを利用し、記憶力維持の為に利用者全員に日記を書いてもらっている。月1～2回は利用者の要望を聞きながら職員と共に手作りの食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取を重要視している。食事形態も個々に応じて工夫し、嚥下の悪い方には側で観察強化している。嚥下体操は食事の前は必ずしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・うがい等の励行をしている。夕食後には義歯を預かり、洗浄して保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄リズム、パターンを把握した上で排泄の声かけをして、トイレに自主的に行くように誘導してトイレでの介助をしている。又トイレ使用チェック表も活用している。	昼夜布パンツで過ごせる方もあるが、安心の為にパットを利用している方が多い。排泄の頻度を確認するためにも、チェック表を基に誘導して自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるかぎり薬を使わない自然排便を目指して、水分摂取量・食事・運動等への気配りをしている。利用者個々の排便チェックを徹底し、便秘薬の提供支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、週2回であるが、利用者の希望に応じることは可能である。大きな浴槽でのんびり、ゆっくり入浴を楽しんでもらっています。入浴剤も工夫して、柚子やミカンを食べた後の皮も湯に入れて香りの良いお風呂となります。	脱衣場はやや狭いが浴槽は大きく明るい。月曜日、木曜日の週2回を基本として、午後の支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休息支援をしています。昼食後は個々に応じて休息タイム・娯楽支援(TV・本・パズル等)をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・薬剤情報は、責任者が個別管理・保管している。受診情報も個別に記載し保管している。毎朝服薬支援と症状の変化の確認・対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前にはリハビリ・ラジオ体操・水分補給・レク。午後にはレク・おやつタイム・歌等支援している。ボランティアの方々との交流も支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物付き添い支援・病院受診・病院定期受診・ドライブ・外食等の外出支援をしている。	日常的には近隣を30分位散歩しており、外気浴を兼ね敷地内の畑での作業をする時もある。要望により2~3人で買い物に出掛けたり、春と秋には花見や紅葉見物に行く事が年間行事の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を所持している利用者がある。出納帳を記入して管理している。お金を持たせて買い物支援していたが、無理になってきたので立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけてと言ってくる利用者があるので、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の広さはやや狭いが、利用者の顔が見え、動向もわかる。利用者共同作品の作成・掲示で温かみのある空間が出来ている。空気の流れ替え・加湿・空気清浄・気温、湿度に配慮して居心地の良い共用空間の工夫をしている。	食堂兼居間はやや狭いが、照明の配慮により明るい。空気の流れ替え設備や加湿器が置かれ、多くの時間を過ごす場所としての配慮がされている。二階への階段は少し急で狭いが、手摺が両側に設置され運動にも役立つ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゲートルームの空間は広くはないが利用者同士雑談もでき、ゆっくりと過ごしてもらえるように工夫して、活用して貰っている。又面会時にお茶を飲みながら、語らいの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく出来るように、プライバシーも重視して、本人の使い慣れたものを持ち込み、本人が居心地の良い自分の居室となるように工夫している。	一階の居室は広く、二階の居室はやや狭いが、利用者の介護レベル、体調に応じた利用となっている。ベッド及びクローゼットが標準配置となっており、利用者の愛用の物を持ち込まれている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全かつできるだけ自立した生活ができ、生活に迷いや不安がないように、かつ職員の顔がいつも見えるように心がけて見守っている。時間・場所の表示等の工夫をしている。		